

道の駅「つどいの郷」再整備へ

睦沢町

定住促進、健康づくり一体化

睦沢町が道の駅「つどいの郷(さと)むつざわ」を再整備する計画を進めている。定住促進住宅(町内への定住を促進するために提供する住宅)と健康支援型の道の駅を一体的に整備する全国的にも珍しい取り組みで、国の支援を受けられる重点「道の駅」にも選ばれている。町では新年度から本格的な検討に入り、2019年度の開業を目指している。

町総務課などによると、既存の道の駅施設や民間の上之郷地区にある現在の道の駅は、02年7月に総合交流拠点施設としてオープンし、04年8月に道の駅に登録された。指定管理者制度により運営されており、野菜や花などの直売や都市部住民が農業体験できる施設があり、人気を集めている。

再整備計画では、現在の道の駅に隣接する森地区に新施設の建設用地(約2・6畝)を取得。町のほぼ真ん中にあり交通量が多い上之郷交差点を中心にして、

既存の道の駅施設や民間の商業施設なども活用して整備する。

町は新しい道の駅を、住民が健康で生きがいを持ちながら生活できる「スマートウェルネスタウン構想」の拠点施設として位置付けている。野菜の直売所だけでなく温泉施設も整備。フィットネスなどの健康関連施設と、高齢者用を含む定住促進住宅(賃貸、約40戸)を併設することで、健康づくりと地域活性化を一体的に担うことを想定してい



道の駅の再整備が計画されている上之郷交差点周辺＝睦沢町

る。
町は民間事業者と連携した整備手法の導入を視野に入れながら、計画を進めることになっている。市原武町の急激な減少に歯止めをかける長は「(国の)補助金と官民連携手法を活用して財政負担を極力少なくし、人口に施設にしたい」と話している。